

# 九州電力は再稼働申請を断念すべき

まつざき真琴県議は、原子力安全対策等特別委員会で、川内原発の安全性や再稼働問題について質問を行いました。

今回は、九州電力の山元副社長など5名を参考人として招致し、審査を行いました。

## 「とにかくひどい」九州電力の活断層評価…再評価を迫る

まつざき県議は、特に、川内原発周辺の活断層の問題に触れ、国の機関である地震調査推進本部（本部長…文部科学大臣）の分科会において、複数の委員から、九州電力が行った活断層の評価が「解釈はとにかくひどいものである。」「九州電力が示した断層図及び解釈図は非常に疑わしいと言わざるをえない。」「他にも活断層がある」などの意見（右下）が出され、報告書において、活断層が九電の評価よりも長く、地震規模も1.1倍に想定されていることを示しました。（右上図）

その上で、「九州電力の企業倫理として、このままでいいのか、再評価すべきでないか。」と迫りました。

九州電力は、「評価のやり方が異なる。」と説明しました。

## 原発に絶対安全はない 再稼働の申請は断念すべき

まつざき県議は、「新規制基準」について、原子力規制委員会の田中委員長も「絶対的安全はない」と発言していることを示し、県民の安全を守るためにも、再稼働の申請は断念すべき、と迫りました。



突然の変更

## 総合体育館をドルフィンポート敷地に整備 白紙に戻して検討を

県は、2020年に鹿児島で開催予定の国体に向けて、総合体育館を県庁東側の県有地と隣接する民有地に建設する「総合体育館等整備基本構想」を定めて準備を進めていました。

ところが、突然、建設場所を鹿児島本港区のドルフィンポート敷地に変更すると発表しました。総事業費約 200 億円を見込んでいます。ドルフィンポートは、2004年7月1日から、16年間の借地権契約で営業がなされていることから、予定より短縮される4年分の補償金も必要となります。

まつざき県議は、「基本構想」に、県庁東側に建設する理由に、「県及び鹿児島市のスポーツ施設が集積する鴨池公園に近接し、

これらの施設との一体的な利用が可能となるなどの利点」があるとしていることを示し、この変更をどう考えるのか質問しました。

今回の変更は、あまりにも唐突であり、計画は白紙に戻して、ドルフィンポート周辺の活用については、専門家や鹿児島市を含めた関係者、住民の意見を聞き、じっくりと検討すべき、と要求しました。

この問題は、引き続き県議会で取り上げていきます。ご意見、ご要望をお聞かせください。



九電と地震調査委員会の図を比べて見れば一目瞭然。九電がいかに原発周辺の活断層を意図的に短くしていたかが分かります。

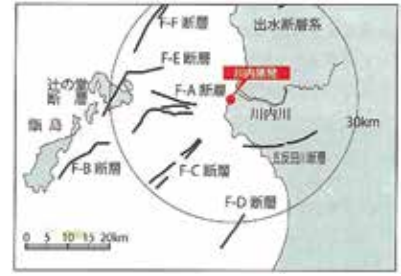


図5.九電の断層図(青木雄氏作成)



図6.地震調査委員会の断面図(青木雄氏作成)

表4. 九電と地震調査委員会の各断層評価の比較

断層名(九電名)	断層長さ	マグニチュード	ズレ
観断層 (F・A、F・B)	18kmと15km → 39km	6.9 → 7.5	4m
臨海中央断層 (F・C)	16km → 38km	6.8 → 7.5	4m
五反田川断層	19km → 25km	6.9 → 7.2	3m

反原発・かごしまネット「川内原発直近の巨大活断層と幾度も襲った火砕流」より

委員：参考資料 3-1-2 の解釈はとにかくひどいものであるが、だからと言って、本分科会において全てのデータを再解釈することは不可能である。最もひどいのは、**地表面(海底面)にまで断層変位が及んでいるにも関わらず、断層の存在を全く無視していることである。**

委員：例えば、参考資料 3-1-2、p101を見ると、海底面にまで断層変位が及んでいるにも関わらず、活断層が描かれていない。他の図に関しても、**解釈には問題点が多数あるので、九州電力が示した断層図及び解釈図は非常に疑わしいと言わざるを得ない。**したがって、断層分布図も見直す必要がある。今回の事務局の提案通り、「参考資料 3-1-2 には図示されていないが、断層変位が認められるのではないか」という意見に同意する。**断面図を見る限り、今回指摘された箇所以外にも、多数の断層変位が認められる。**これらをどこまで扱ったらよいかということについては、事務局の判断による。図面を見て、地層が切れているか否かの判断は難しい。どうしたら良いか。

地震調査研究推進本部 地震調査委員会 長期評価部会 第18回活断層分科会(平成24年7月26日)議事概要(案)より